

十五年戦争期の女子専門学校「裁縫」試験問題

学芸学部 国文学科 白川 哲郎

要旨：本稿では、樟蔭学園に遺る樟蔭女子専門学校の『検定ニ関スル試験問題集』の中から、技芸科の試験問題を翻刻、紹介する。技芸科の試験問題は、「裁縫」の中等教員資格に関わるものであることから、「和裁」「洋裁」などの実技に大きな比重がおかれていた点、デッサン・図解などを求める出題が多くなされていることから、単に裁縫技術だけでなく、和服・洋服制作の前提となる図を描く技術の習得も重視されていたと考えられる点などを指摘した。さらに、ヨーロッパで学んだ大橋富枝(トミエ)氏が教鞭をとっていた事実から、樟蔭女子専門学校の当時の洋裁教育が、最先端かつ高度な水準にあったと推定される点についても確認した。また、太平洋戦争中の1942年に決定され女性に着用が勧められた「婦人標準服」や、「モンペイ」が問題の素材とされ、その制作に関わる出題がなされていることから、実技重視の「裁縫」試験問題においても、戦争の影響が見出される点についても指摘した。

キーワード：戦前女子高等教育、樟蔭女子専門学校、中等教員免許無試験検定、裁縫、戦争

はじめに

本稿では、樟蔭学園に遺る樟蔭女子専門学校(以下、「樟蔭女専」と記す)の『検定ニ関スル試験問題集』(以下、『試験問題集』と記す)の中から、技芸科に関わる試験問題を翻刻、紹介する。

樟蔭女専は、1925(大正14)年12月に設置認可を受け、翌年4月に開校した。技芸科は、国文科・家政科とともに開校と同時に開設された学科で、両学科とならんで樟蔭女専の中核をなした。第二次世界大戦末期の1944(昭和19)年には、技芸科は「被服科」と改称され、さらに戦後の学制改革によって樟蔭女専が大阪樟蔭女子大学へと転換した際には、被服学科へと改組された。

ところで樟蔭女専は、1929(昭和4)年6月、中等教員免許無試験検定取り扱いの認可を得、同年3月に卒業した一期生に遡って、国文科には「国語」、家政科には「家事」、技芸科には「裁縫」の中等教員免許が認められた¹⁾。『試験問題集』は、この中等教員免許無試験検定取り扱いに基づき、1929年から1949(昭和24)年までの間、中等教員免許を申請するに際し、毎年文部省に添付書類として提出された試験問題の控えを綴ったものである。筆者はこれまでに、一期生が受験した1928(昭和3)年度から敗戦の年度となる1945(昭和20)年度までの樟蔭女専国文科・家政科の試験問題を翻刻、紹介してきた²⁾。そこで本稿では、同期間を対象とし、「裁縫」免許に関わる技芸科の試験問題を翻刻、紹介する(後掲

「表 検定試験問題(技芸科)一覧」参照³⁾。

I 技芸科試験問題の概観と特徴

表からは、「裁縫」の中等教員免許に結びつく技芸科の試験問題において、やはり「和裁」「洋裁」といった実技が大きな比重を占めていることが見てとれる。

それは、他の科目に比して長い試験時間が、如実に現している。例えば最初の年度となる1928年度、他の科目が80分であるのに対して、渡辺サク氏担当の「裁縫」が10分長い90分となっている。「裁縫」は、廣橋芳野氏が担当した翌1929年度こそ他の科目と同じ試験時間の80分となっているが、ふたたび渡辺氏が担当した1930(昭和5)年度には、120分と他の科目の1.5倍の試験時間が配当されており、それに加えてさらに180分を充てる「裁縫実地試験」も課されている。この「裁縫実地試験」はその後、「和裁実演」(1931(昭和6)年度)、「和裁実際」(1933(昭和8)年度)、「和裁実地考査」(1934(昭和9)年度)、「和裁実習」(1935(昭和10)年度)などと、たびたび名称を変えながら、1940(昭和15)・1944年度を除いて、試験として課され続けた。

もうひとつ、実技重視を現す点として、デッサンや図解を求める問題が多いことに注意しなければならないであろう(表中の▲印参照)。大橋富枝(トミエ)氏が担当した「洋裁」(あるいは「洋裁理論」)において、例えば1930年度の第一問で「パージ、ヅ、モードノ十二頁

ハ一一番ヲデッサンセヨ」とあり、おそらくは当時のファッション誌と推測される『パージ、ヅ、モード』に掲載されている洋服をデッサンするという出題がなされている。翌1931年度第一問でも同様に、「ランシェリー エレガント ノ三頁二十九番ヲデッサンセヨ」という出題がなされている。以後も出題者として見えない1932(昭和7)年度を除き1940年度まで、「洋裁」の試験問題において大橋氏は、提示した図(洋服・洋服の際に着用する下着など)のデッサン・製図・作図を出題し続けている(図参照)。このように、単純に洋服を縫製する技術だけではなく、その洋服を制作する際に必要とされるデッサンや製図など、図を描く技術をも習熟することが求められていたことが知られるのである。

こうしたデッサン・製図の技術を問う傾向は、「洋裁」だけではない。「和裁」(あるいは「和裁理論」)においても、実際にある和服を制作するという仮定に立ち、寸法や裁ち切り方などを記入して、それを図解することを求める問題、例えば廣橋氏が担当している1932年度「和裁理論」第一問のような問題が、ほぼ毎年のように出題されている。「和裁」においても、和服を制作する前提となる裁ち方図作成の技術を習得していることが求められたことが判る。

さて、先に触れた大橋氏について大丸弘氏は、「大橋はロンドンで二年、パリで四年、オートクチュールの技術を学び、その著書《洋裁の理論と実際》は、翻訳臭は気になるものの、当時の洋裁界にとっては、有益なものであったにちがいない」と指摘し、「樟蔭女専の洋裁は、(中略)大橋富枝教授の就任によって、きわめて高い水準となった」と評価している⁴⁾。かつて筆者が樟蔭女専および樟蔭高等女学校の体育教育について朝輝記太留氏を取り上げ、それが最先端の内容であったことを指摘したのと同様に⁵⁾、樟蔭女専の洋裁教育もまた、当時の最先端を行く内容であると同時に、極めて高い水準にあったことを確認しておきたいと思う。

II 「裁縫」試験問題に関する若干の考察—戦争と試験問題—

試験問題を翻刻、紹介する時期が、いわゆる十五年戦争の時期と重なり合うことから、筆者はこれまでも樟蔭女専で実施された試験問題における戦争の影響を指摘してきた⁶⁾。かつて家政科の試験問題に関わって指摘したように、「家事経済」という科目は当時の社会状況を広く反映していたが⁷⁾、技芸科における「家事経済」の試験問題についても同様である。たとえば、1943(昭和18)年度「家事経済」第一問において、「主婦ノ

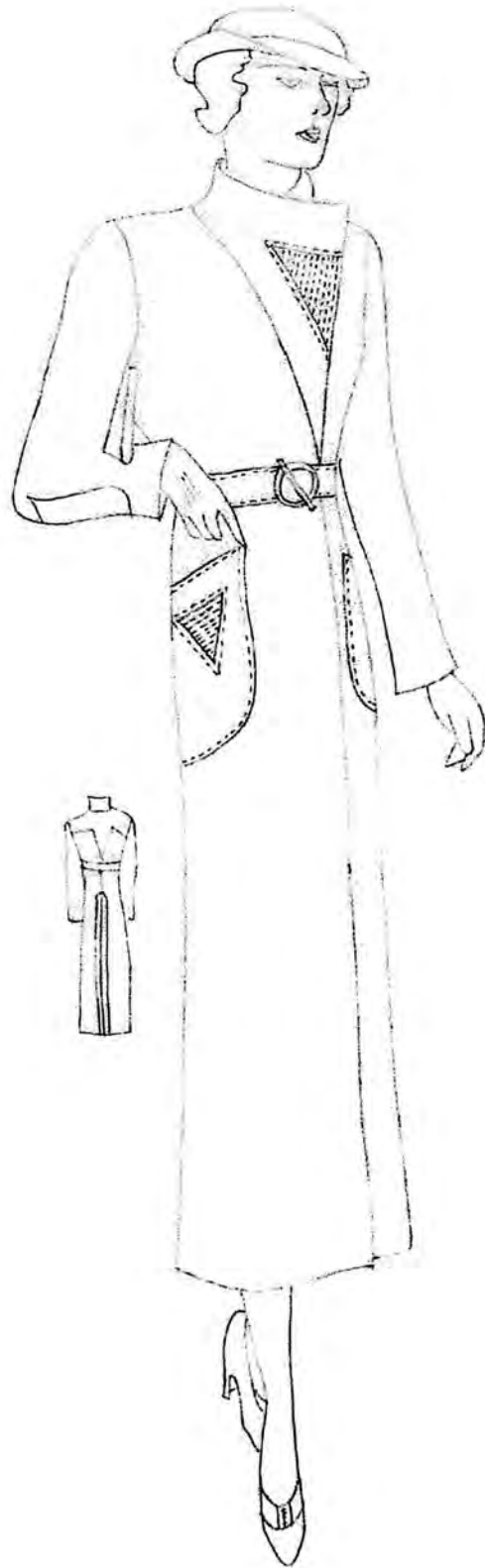


図 1934(昭和9)年度「洋裁」(第1問力)出題図

消費経済ニ関スル知識量ノ大小ガ戦争完遂上大ナル関係ヲ有スル所以ヲ説明スベシ」という問題が出されており、「戦争完遂」を前提として、主婦の消費経済に關す

る知識の重要性が問われている。銃後の主婦の自覚が問題とされているとも言えよう。ただ、こうした「家事経済」のような社会状況を反映し易い科目以外では、既に指摘したように技芸科の「裁縫」免許に関する試験問題が実技に大きな比重を置いていることから、顕著な戦争の影響は見出し難い。けれども実技科目にあっても戦争の影響は皆無ではない。そこで以下、「裁縫」免許に関わる実技科目の試験問題に確認される戦争の影響について指摘しておきたい。

一見して明らかな変化を確認できるのは、1943年度「和裁」の問題であろう。第三問では、「高等女学校の生徒に現下の時局に鑑み衣生活に対する指導をなさんとす、その要項を列挙せよ」とある。「現下の時局」という文言が注目されるのであって、戦時下、高等女学校の「裁縫」教員として生徒に相対した際、如何なる点に注意しながら指導すべきかという、極めて実践的な問題が出題されている。戦争の影響は明らかであろう。

さらに同年「和裁」第二問では、「高等女学校一年生に裁切袖丈七八糎・裁切身丈一五〇糎の棒衿大裁単衣を以て婦人標準服乙型二部式に更生し余り布にて下穿きを作らしむる事を教授せんとす、如何なる注意を与ふべきか、なほこれに用ひる図解を示せ(但し本人の着用するものとす)」という出題がなされている。使用する用布を指定して、ある仮定にしたがい実作、あるいは実作に必要な図を作成するという問題は、それまでの「和裁」のみならず「洋裁」をも含む「裁縫」免許関係科目の実技に共通する出題形式であり、そこに大きな相違は無い。ただここで注目しなければならないのは、課題として掲出されているのが、「婦人標準服乙型二部式」であるという点である。

十五年戦争中の1940年、国民服令によって男性用の基準服として制定された「国民服」に対応する形で、1942(昭和17)年2月に決定された女性用の基準服が「婦人標準服」であった⁸⁾。そのうち、和服の特徴を備えたものが「乙型」であり、洋服の特徴を備えたものが「甲型」、いわゆるもんぺ風のが「活動型」と呼ばれている。また「二部式」とはツーピース型を意味し、「一部式」はワンピース型である。したがって「婦人標準服乙型二部式」とは、和服様でツーピース型のものということになる⁹⁾。こうした戦時下における政府の服装統制に直結する服装が試験問題の素材とされていることは、戦争の影響以外のなにものでも無いであろう。

そして翌1944年度の「和裁理論」では、「袖丈七十糎、身丈一米十糎、其の他普通、右裁切にて仕立られたる一枚の単衣あり、之を以てモンペイ及びその上衣を仕

立てんとす、型は任意に選定し裁方を図解せよ、但し寸法は普通標準による」と、ついに「モンペイ(もんぺ)およびその上衣」が素材として選ばれている。1944年に樟蔭女専へ入学した田辺聖子氏の「制服のスーツすら着たのは一学期だけで、あとはもんぺになった」との証言にあるように¹⁰⁾、同年の二学期頃からは生徒自身ももんぺ姿になっていたことからすれば、悪化する戦況の下、身につけるものを自らの手で作るという意味において、現実的な技術の習得を求める問題であったと言える。卒業後もすぐに役立つという意味でも、きわめて実際的かつ有用な技術の習得が求められたとすることができる。これが戦争の直接的な影響であることは繰り返すまでもない。やはり樟蔭女専にとって、そしてそこで学ぶ生徒たちにとって不幸な時代であったといえよう。

おわりに

以上、樟蔭女専技芸科の試験問題を概観し、その注目点について見てきた。技芸科の試験問題が「裁縫」の中等教員資格に関わるものであることから、「和裁」「洋裁」の実技に大きな比重がおかれていたことを指摘した。そしてその実技の中でも、デッサン・図解などを求める出題が多くなされていることから、単純に裁縫技術の巧みさを求めるのではなく、和服や洋服の制作の前提となる図を描く技術の習得も重視されていたことを指摘した。さらに、当時ヨーロッパで最新の知識と技術を学んだ大橋富枝氏が教員として在職していたことに着目するならば、樟蔭女専の洋裁教育が、当時最先端かつ高度な水準にあるものであったと考えられることも確認した。また、実技重視の技芸科の試験問題においても、十五年戦争下、女性に着用が勧められた「婦人標準服」や「モンペイ」を題材として、その制作に関わる出題がなされていることから、戦争の影響を確認できることを指摘した。ただ、なにぶんこうした服飾の分野について筆者は全くの門外漢のため、大きな誤りや見落としをしていることを恐れる。専門の方々からのご助言、ご叱正を仰ぎたいと思う。

さて、本稿で技芸科の試験問題を紹介したことにより、樟蔭女専設立当時に設置された国文・家政・技芸三学科の1945年度までの『試験問題集』に載る試験問題を公開することができた。それぞれの試験問題を紹介した際に、その特徴や、特に戦争が及ぼしている影響については若干の考察を加えてきた。しかしながらさらに進んで、当時の樟蔭女専の具体的な教育内容とのすりあわせや、あるいは当時の女子高等教育の中でそ

れらが有する意味などについての検討は残したままとなっている。今後は、他の資料を参照しながら、樟蔭女専における教育の具体的様相を描き出して行くとともに、昭和戦前期における女子高等教育に関する研究としての考察を深めて行きたい。

- 1) 中等教員無試験検定認可を獲得した前後の時期における樟蔭女専の状況については、拙稿『職員會誌』から見た昭和初期の樟蔭女子専門学校』（『大阪樟蔭女子大学論集』第42号、2005年）を参照されたい。
- 2) 拙稿「十五年戦争期の女子専門学校国語試験問題」 「十五年戦争期の女子専門学校『家事』試験問題」（『大阪樟蔭女子大学論集』第46号・第47号、2009年・2010年）。
- 3) 1945年度が、技芸科として最後の1943（昭和18）年度入学生が卒業年次を迎える年度であることも付記しておく。
- 4) 大丸弘「現代和服の変貌 II - 着装理念の構造と変容 -」（『国立民族学博物館研究報告』10巻1号、

1985年）186ページ。

- 5) 拙稿「新収集資料に見る大正～昭和初期の樟蔭学園」（『大阪樟蔭女子大学論集』第44号、2007年）207～216ページ。
- 6) 前掲注2)に同じ。
- 7) 前掲注2)拙稿「十五年戦争期の女子専門学校『家事』試験問題」。
- 8) 「婦人標準服」については、高橋晴子『年表 近代日本の身装文化』（三元社、2007年）469ページ掲載の図を参照されたい。
- 9) 「婦人標準服」は、当時ほとんど普及することはなかったようであるが、戦後の女性の洋装化において大きな促進要素となったことが指摘されている（『読売新聞』「家庭面の一世紀 女性と戦争(10)「標準服」洋装の契機に」（2010年8月3日）参照）。
- 10) 『樟蔭学園創立七十周年記念誌 樟の輝き』（学校法人樟蔭学園、1987年）5ページ。
[付記]本稿は、2003～2010(平成15～22)年度大阪樟蔭女子大学特別研究助成費による成果の一部である。

表 検定試験問題(技芸科)一覧

| 年度 | 技 芸 科 | | | | 時間(分) |
|-------|--------------|-------|---|--|-------|
| | 科目名 | 担当者 | 問 | 題 | |
| 昭和3年度 | □倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | | 80 |
| | □法制学 | 中西保則 | 国文科・家政科と共通 | | 80 |
| | □教育学 | 渡辺さく | 実地授業 3年11月～4年2月 | 教授按作成 教生トナリ教授スベキ生徒ハ樟蔭高等女学校生徒ヲ各学年ニ亘リテ配当ス | |
| | △家事 | 桑野久任 | 一、一度アル伝染病ヲ経過センモノガ再伝染ヲ免カルル理由如何 二、大小或ハ軽重ノ判断ニアツカル感覚ノ種類ヲ列挙セヨ 大小ハ何々軽重ハ何々ト答ヘヨ 三、鼻呼吸ト口呼吸トノ利害ヲ比較セヨ | | 80 |
| | 家事 | 三田谷啓 | 一、神経質トハ何カ 二、乳児死亡ノ原因 三、幼児保育ノ目的 | | 80 |
| | 国語 | 青木幹一 | 一、通釈 二、通釈(語句説明) 立部、定者、臺盤所、へんつき、主殿司 三、文学史 小説家としての一葉女史に就て | | 80 |
| | 家事 | 室富新輔 | 一、此図ヲ批評セヨ 二、従来ノ台所設備ノ欠点ヲ挙ゲ之レガ改善法ヲ述ベヨ | | 80 |
| | 裁縫 | 渡辺サク | ▲一、一ツ身絞附ノ二枚重ねを無垢仕立となし紐を共にして其の裁ち切り身丈を一メートルとせば上着下着表裏の布何程を要するや 裁ち方図を示し其の名称寸法を記入し積り方を記せ 二、模様物の重ねを仕立つるに当り其の注意すべき点を挙げよ | | 90 |
| | 洋裁 | 尖戸ミヤ | 一、衿ハ折衿 袖ラグランシテ才用男児用オーバーコートヲ裁テ 二、表ラシヤ 裏毛襦子(幅八十糎)ニテ以上ヲ裁テ表裏及ヒ裏用布幾米ヲ要スルカ | | 80 |
| | □倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | | 80 |
| | □法制 | 中西保則 | 国文科・家政科と共通 | | 80 |
| | 洋裁 | 尖戸ミヤ | 八才用ニテ図(省略)ノ如キ「オーバ」ノ裁方ヲ記セ 寸法記入 但袖・・・バルマカン | | 80 |
| 昭和4年度 | △育児 | 三田谷啓 | 一、湿布ノ造り方 二、玩具ノ選ヒ方 三、小学校入学ノ準備ニ付テ | | 80 |
| | 教育 | 廣橋芳野 | 一、裁縫科教材ノ選択上ノ要件ヲ簡單ニ列挙セヨ 二、高等女学校五ヶ年程度ノ第二学年ニ於ケル教授細目ヲ作レ 三、裁縫科ニ於テ節約利用ノ習慣ハ如何ナル場合如何ナル事物ニヨリテ養成セラルルカ | | 80 |
| | 裁縫 | 廣橋芳野 | ▲一、上着表一枚分(前十一米六四糎)と下着廻り表一枚分(前五米九二糎)の訪問服地用布地あり 本裁女物比翼を仕立ルニはその他に如何なる用布の必要ありやスベテ普通寸法によりて見積りをなし各々ノ布の総尺及ヒ積り方公式算式並に裁方を図解して名称寸法を記入すべし 但上着袖丈裁切り七六糎外普通寸法 二、子供服肩揚 腰揚 付紐の位置及方法を問ふ | | 80 |
| | 家事 | 室富新輔 | 一、文化住宅ヲ批評セヨ 二、家屋ノ間取ニツキ注意スベキ点ヲ問フ 三、燈火ノ具備スベキ要件ヲ挙ゲヨ | | 80 |
| | 家事 | 古澤くら | 一、鮮飯ノ炊キ方及酢ノ加減ヲ記セ 二、伊勢海老ノ舟蒸シ 料理法ヲ記セ 三、炸力脊 料理法ヲ記セ | | 80 |
| | 国語 附文学史 | 青木幹一 | 一、解釈 二、枕草子ノ解説 | | 80 |
| | □倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | | 80 |
| | □法制学 | 中西保則 | 国文科・家政科と共通 | | 80 |
| | △衛生学 (理科) | 竹村一 | 一、社会病ニ対スル婦人トシテノ意見 二、婦人労働ニ対スル衛生学的意見 右二題ノ内随意一題ヲ選ヒテ答フベシ | | 80 |

| | | | | |
|-------|------------|--|--|-----|
| 昭和5年度 | 裁縫 | 渡辺サク | 一、並縮の縮織にて長着丈一米三八種の男物本裁縫無袴を裁つに裁ち込みを一五種とし替腰布をも採らば用布の総丈何程を要するや 二、上り袖丈五一釐上り身丈一米二五種の長襦袢を用ふる四十歳位の本裁縫女物半重ねを上着は総にて下着は又、にて仕立んと各用布何程を要するや(幅井幅) ▲一、二問題共に裁方図を示し、各部の名称寸法及び積り方を示せ | 120 |
| | 裁縫 実地試験 | | 本裁縫比翼の前身及袴の縫ひ方 寸法二分ノ一 用布木綿 | 180 |
| | 教授法 | 渡辺サク | 一、高等女学校第一学年第二学期に於て講する本裁縫単衣揚げ仕立方の部分縫の教授案をつくれ(蜜案) 二、細目編成上の注意事項を列挙せよ | 80 |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | ▲一、バーズ、ツ、モードノ十二頁ハ一冊ヲデッサンセヨ 二、親類ノ結婚式ニ招待サレタル時ノ服装(形、色)(地質、附属品)ニ付テ記セ 但スタイルハ、バーズ、ズ、モード ニヨル 三、左ニ付テ知ル所ヲ記セ 一、レザーメード 二、テーラ 三、コスチウム 四、レーヨン 五、マネキン 六、ドレスメーカ | 180 |
| | 国語 | 青木幹一 | 一、(解釈力) 二、(解釈力) | 80 |
| 昭和6年度 | 家事 | 三田谷啓 | 一、玩具の選び方 二、幼稚園の目的 三、医師選択の注意 | 80 |
| | 家事 | 室富新輔 | △一、借家住居の利害得失につき論せよ 二、家屋の間取につき注意すべき点を挙げよ | 80 |
| | 割烹 | 古澤くら | 一、肴二〇〇瓦ト随意野菜ヲ用ヒ一汁二菜ヲツクレ 分量料理法ヲ記セ 二、桜桃肉 ノツクリ方 三、アップルタピオカ ノツクリ方 | 80 |
| | 手芸 | 守田銀 | 図形のテネリフレースを各種一枚宛ツクレ | 80 |
| | 口倫理科 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 口法制科 | 中西保則 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 和裁 | 渡辺サク | ▲一、長着丈一米三十六種の男物袷二枚重ね(無垢仕立テ)の服型とその羽織を無双裁にせよ表用布何程を要するや 但上着下着羽織何れも用布を用ふ、右裁方図を示し各部名称上着下着差異の点は寸法にて他は総て積り方と共に其の内容を公式にて示せ(並縮) 二、重ね物を仕立つるに当り上着下着の丈を調査するハ如何なる箇所又其の方法を記せ 但袷大人女物 | 120 |
| | 和裁実演 | 渡辺サク | 一、上前種の縫い方 批五耗綿入れ | 90 |
| | △洋裁 | 大橋トミエ | ▲一、ランジェリー エレガントノ三頁ニ九番ヲデッサンセヨ 二、裁断法ノ種類ヲ挙テ其可否ヲ説明セヨ 三、次ノ問ニ答ヘヨ A、顔色ノ汚ヘヌ人ニハ如何ナル色ノドレスヲ選フベキカ B、背低キ瘠セタ人ニハ如何ナル色トスタイルヲ選フカ C、薄地ノ毛織ノサーキュラーノスカートノ裾口ハ如何ナル方法ニテ仕上ケルカ D、チーフガウンハ如何ナル場合ニ兼用サレルカ E、いかり肩猫背ノ人ハ如何ニ肩ノ線ヲ定ムベキカ | 80 |
| | 教育 | 渡辺サク | 一、裁縫教授ノ原則ヲ成るべく個條書にて列挙せよ 二、高等女学校第一学年に於て本裁縫男物単衣を教授するに当り其の袷先の部分縫ひを如何なる時期に於て講するや又其の教授案をつくれ | 90 |
| | 手芸 | 守田銀 | 一、与ふる糸にて テネリフレース の基礎を図形并に菱形を各一枚作るべし | 120 |
| | △生理衛生 | 竹村一 | 一、遠気を不良ならしむる原因に就てのべよ 二、カタ寒暖計 三、社会病に対する婦人としての意見 | 80 |
| 家事 | 室富新輔 | △一、大阪市及其附近に住居を定めんとすれば何れの地を選ぶか又其理由を評記すべし 二、燈火の具備すべき要件を挙げよ | 80 | |
| 国語 | 山口助治 | (解釈力) 一、 (解釈力) 二、 (解釈力) 三、 | 80 | |
| 昭和7年度 | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 口教育 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | ■教授法 | 廣橋ヨシノ | 一、教授案ノ作製 二、実地授業 授業ヲナスヘキ生徒ハ本校ノ姉妹校タル樟蔭高等女学校生徒ヲ宛ツ | |
| | 和裁理論 | 廣橋ヨシノ | ▲一、用布表地中幅(五十種)縮織にて本裁縫女物無垢三枚重ねの裁方を図解して各部の名称寸法を記入し且その総尺をも記述すべし 但、各部共通寸法に仕立てるものとし形よき程度に各部の見積りをなし出来得る限り用布の総尺に於て節約をなすべし 尚右のうち上着、中着は比翼仕立とし右に要す ▲二、レースに接ぎ方を四種図解せよ 三、毛皮の保存法を付て記せ | 180 |
| | 手芸 | 守田銀 | 一、テネリフレースの円型三種を示し其内の一様を作るべし | 180 |
| | 家事 | 室富新輔 | 一、別紙住宅平面図につき批評をなすべし(平面図を略す) △二、室内装飾上重要な事項を概括して説明すべし | 80 |
| | 割烹 | 古澤くら | 一、揚物用煮出汁ノツクリ方 二、炸蝦捲ノ料理法ヲシルセ 三、栗羊羹ノ製法ヲ記セ 四、Sponge Drope ノ材料及分量ヲ記セ | 80 |
| | 洗染 | 和田タケ | 一、人絹友禪ノ羽織ノ肩裏ノ洗濯及仕上 二、刺繍入半襟ノ白粉垢ノ汚点抜 三、毛織物ノ日常手入れ | 80 |
| | 国語 | 山口助治 | 評釈 | 80 |
| | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | ▽家事 | 片野貫之助 | 一、何故二収入二間シ危険分散主義ヲ実行セザルベカラザルヤ 二、家事経済学習者ノ立場ヨリ剰余金ノ適当ナル処分ニツキ略述スベシ 三、剰余金ノ預託ニ関シ銀行ノ選択法ニツキ注意スヘキ事項ヲ問フ | 80 |
| | 教授法 | 坂入よしの | 一、高等女学校第一学年第一学期の教材として本裁縫単衣の縫方を教授せんとするに当り袖ハ〇種其他普通寸法を用ひたる袖の標付方及縫方を授けむとす 初学年にして凡ての単衣の袖の基礎となるものなれば出来得る限り平易にしかも必要点ヲ確實に教へ得る様精案を記せ 二、裁縫科教師として教壇に立つ場合担当学科の価値を自覚する時と然らざる時とは教授上如何なる影響を及ぼすか | 180 |
| 和裁理論 | 坂入よしの | ▲一、総用布十二米の友禪錦紗表地にて女袷羽織を仕立てんとす袖丈裁切ハ〇種上り身丈九十種縮織三種とし尚裁切身丈は一米四〇種前身は裁切の布の端が乳下りより(乳下り普通寸法)四種下りたる所なる様定むるものとせば各部の裁切丈を如何に定むべきか 必要だけ用布を使用し残りある時は残布として出すも差支なく又適當の所に縫込として見込置ても差支なし 尚裏用布の見積りをなし表裏共裁方図を記し寸法を記し見積方の式をも記せ 二、重ね物を最も上手に仕立てんとする場合は諸注意を左に區別して列記せよ イ、襷附方 ロ、縫方 ハ、出来上り上着下着のくらべ方要所 | 180 | |
| 和裁実演 | 坂入よしの | 本裁縫羽織片身頃の袖附及襷附 | 180 | |
| 洋裁理論 | 大橋富枝 | ▲一、左図の外套のデッサンをせよ(略図表) 二、外套の縫方を縫方順序を記せ 三、ドレス構成上のドレーピングニ付て記せ | 120 | |
| 国語 | 山口助治 | 解釈 一、 俚諺ノ意義ヲ説明セヨ 二、亭主の好きな赤烏帽子、 三べん遊って煙草にせり、 背に腹はかへられぬ、 身は身で通る裸坊、 鯛の頭も信心から | 80 | |
| 割烹実習 | 古澤くら | 左ノ材料ヲ以テ一時間半内ニ一汁二菜ヲツクレ 小鯛一枚(300瓦)、大根100瓦、 筍80瓦、 衣さや20瓦、 独活10瓦、 赤味噌30瓦、 白味噌10瓦、 ワサビ・芽シソ少々 | 80 | |
| 手芸 | 守田銀 | チョッキの上前のポケット并に衿を編むべし | 180 | |
| 家事 | 和田タケ | 一、各機織ニヨリ洗濯剤ノ異ナル理由ヲ述ブベシ 二、絹染用トシテ家庭ニテ用ヒラルル染料名ヲ挙ゲ其ノ染法ヲ詳記セヨ | 80 | |

| | | | | |
|--------|--------|-------|--|-------|
| 昭和9年度 | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 口家事経済 | 片野實之助 | 一、生産信用ノ歓迎スベク消費信用ノ歓迎スヘカラサル理由ヲ問フ 二、貯蓄ノ国民経済ノ関係ヲ説明スベシ 三、基礎確實ニシテ利率高キモ有名ナラサル会社若クハ地方的ナキ会社ノ社債券ノ如キハ一般家庭ノ投資法トシテハ之ヲ避ケル可トスル理由ヲ問フ 四、社債券ノ所有者ト株主トノ対会社関係ニ於テ異ナルコトヲ略述スベシ | (80力) |
| | 教授法 | 後藤ひろ | 一、女子中等教育ニ於テ裁縫教授ノ目的 二、運針教授ノ取扱方ニツイテ述ベヨ 三、裁縫教授ニ必要ナル教授細目ハ如何ニシテ作製スルカ 四、創作的学習法ノ其ノ主旨トストコト其ノ方法ヲ概説スベシ | 160 |
| | 和裁 | 後藤ひろ | 一、次ノ問題ニ答フベシ 1、本裁比翼ノ種類と仕立方相違点如何 2、女物本裁比翼無垢仕立ノ表用布ノ布数を記せ 3、右裁方を普通裁切寸法にて図示シ総用布を計算せよ 二、五布蒲団(鏡仕立)と三布引返し敷蒲団二枚と中夜着とを凡そ二疋(並物)にて裁ち合せよ 但普通寸法 三、長持油罩ノ裁方と仕立方を問ふ 四、十番馬乗袴を裁つに紐下八五センチ上りとして総用布を計算せよ 但半十布使とし計算内容を明かに示せ | 180 |
| | 和裁実地考查 | | 一、裾模様合せ 縮縮地 二、縮入縫縫 全〔縮縮地〕 | |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | ▲一、左図ノデッサンをせよ ▲二、左図ノデッサンをせよ 三、左図ノ縫方を説明せよ | 180 |
| | 国語 | 山口助治 | 一、左ノ助動詞ヲ適切ニ口訳シテ説明ヲ加ヘヨ〔文章略〕 二、日本語ハ世界ノ言語ノ如何ナル種類ニ属スルカ又其ノ特徴ハ如何 三、象形文字指事文字形声文字会義文字ヲ例ヲ挙ゲテ簡單ニ説ケ | 80 |
| | △育児 | 斎藤明堯 | 一、間食ニ対スル注意事項 二、子供ノ口腔ノ衛生ニ就テ殊ニ歯牙ニ対スル注意 三、子供室ニテ注意ヲナスベキ事項 | 80 |
| | 家事 | 横濱勉 | △一、児童室ノ位置、構造及設備ニ就テ説明セヨ 二、室内装飾ニ於テ色彩ノ選ヒ方ニ就テ注意スヘキ事項ヲ挙ゲヨ △三、小電動機ヲ利用スル水揚ポンプ、洗濯機及真空掃除機ニ就テ説明セヨ | 80 |
| 昭和10年度 | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 和裁 | 坂入よしの | ▲一、着丈一三六釐ノ男子に用ふる単衣羽織及袴無袴を同一セル地にて仕立てんとす 寸法は各部共着丈ニ準じたる普通寸法を用ふるにせよ総用布何程を要するや積り方を記し各部ノ裁切寸法を明記し裁方總合図を図解して名称寸法を漏れなく記入せよ 但用布は並巾物とす ▲二、大人袴ノ各種類につき兼間ノ位置ノ定め方を図解を以て説明し用布巾四〇羅紐下八三釐其ノ他は普通寸法とせる場合ノ寸法を必要かと思はるる個所に記入せよ 男袴羽織 袖付七ツ留及七前袖付ノ実習 | 190 |
| | 和裁実習 | | ▲一、左図外装ノデッサンをせよ(図ヲ略ス) 二、別紙婦人服ノ種類ノ名称を附し且如何なる場合に使用せらるるかを説明せよ(図ヲ略ス) 三、左ノ洋裁用語を説明せよ | |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | マツチ、ドレーシー、ドレーピング、アンサンブル、シャルマン、エレガント、フワッショシヨウ、シルエツト、ドレスメーカーカスツ、アストラカン、エポレット、アームホール、トリーシング、ヨークジャボ、プリッセ、テラード、コスチューム、 三〔四力〕、左図スカートノ仕立方を説明せよ(図ヲ略ス) | 190 |
| | 家事 | 祐源トキ | 一、住宅椅子ニツキテ記セ 二、台所ノ三中心ニツキテ詳シク記セ | 80 |
| | 家事経済 | 片野實之助 | 一、例ヲ挙ゲテ収入ノ危険分散主義ヲ説明スベシ 二、富裕階級ニ属スルモノモ奢侈ハ之ヲ避ケルヲ要スル所以ヲ問フ 三、家事経済ニツイテハ生産経済ト異ナリ原則トシテ負債ヲ支出ノ財源トナサザル様注意スルヲ要スト言フ何故ナルカ | 80 |
| | 国語 | 山口助治 | 一、(解釈力) 二、更級日記をよみて | 80 |
| 昭和11年度 | △倫理 | 伊賀駒吉郎 | 家政科と共通 | 80 |
| | 和裁 | 坂入よしの | ▲一、現今流行ノ婦人服コート袴ノ種類別ニヨリテ形ヲ三種選出シシヨ仕立方ヲ図解ヲ入レテ説明セヨ ▲二、給ノ丸帯ノ仕立方ニ関スル一切ノ事項ヲ明記セヨ 但シ必要ニ応ジテ図解ヲモ記ズベシ | 180 |
| | 和裁実習 | | 一、男袴羽織片身頃ノ七ツ留 袖下ノ四ツ縫及前裾附 裏前袖附 二、洋裁教授ノ能率ヲ増進セシムルニハ如何ナル点ニ注意スベキカ 三、左ニ示セル織物ノ名称及ビ裁縫上注意スベキ事項ヲノベヨ (シール、アストラカン、ジャージ、ベルベット、フラノ、シツホンベルベット二種、ポイル、モヘヤ、ジョーゼツト) | |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | ▲三、左図婦人外装ノデッサンヲセヨ(図ヲ略ス) 一、台所ノ位置ト方位ト広サニツイテ記セ | 120 |
| | 家事 | 祐源トキ | 二、応接室及窓飾リニツイテ記セ 三、換気ノ必要ト度数ニツイテ記セ 一、国際貸借ノ関係ガ物価ニ及ボス影響ニツキテ略述スベシ | 80 |
| | 家事経済 | 片野實之助 | 二、住宅組合ガ社会問題ノ解決上大ナル価値ヲ有スル理由ヲ説明スベシ 三、家事経済ニ於テ経常不足ヲ生ジタルトキ如何ナル善後策ヲ採ルベキヤ | 80 |
| | 国語 | 武田宗俊 | 一、括弧内のみ解釈せよ 二、(解釈力) | 80 |
| 昭和12年度 | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | △国語 | 上原延蔵 | 家政科と共通 解釈 一・二 | 80 |
| | 和裁 | 有吉八重子 | 一、用布表地並巾ノ古演縮縮にて本裁女物小袖無垢三枚重ねを作らんとす、左ノ間に答へよ 但し上着は比翼として下着は胴抜きとす 裁切寸法 袖丈七〇、身丈一五二、衽下二〇、裾襷〇・五 ▲a、表用布、裏用布、及胴抜用布ノ裁方を図解し、各部ノ名称、裁切寸法を記入すべし b、各布ノ用布総尺ノ積方 二、女物二枚重ね仕立に当り上着黒縮縮、下着白羽二重として何れも上等ノ生地なる時と伸縮なき銘仙ノ二枚重ねに比し最も注意すべき箇所及其ノ方法を記せ 三、左記事項を教授するに当り注意すべき諸点と生徒ノ多く陥リ易キ欠点を記せ a、運針 b、隠縫 c、刺先 | 150 |
| | 和裁実習 | 有吉八重子 | 実地 三種袴ノ両様 補綴ノ内角穴縫ぎ ▲△一、左図婦人外装を実物大にてデッサンをせよ ▲△二、左図ローブノ材料をシフオンヴェルヴェツトを使用する時其ノ仕立方に就テ説明せよ 三、婦人服に使用するボタン、バックル等ニ対スル考慮を述ベヨ | 150 |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | 一、消極的負債ハ家事経済上極力之ヲ避ケルコトニ留意スベキ理由ヲ問フ 二、銀行ト家事経済トノ関係ニツキテ略述スベシ 三、真正不足ニ対スル健全ナル善後策ヲ説明スベシ | 180 |
| | 家事経済 | 片野實之助 | 四、線引小切手ノ効用ヲ問フ 五、家事経済学ヲ学ビタル者ノ立場ヨリ左ノ十七文字ヲ批評スベシ イ、ヤスイテ沢山買ッテ人ニヤリ ロ、高クトモ永持スレバ未ハ得 | 80 |
| | 家事 | 祐源トキ | 一、洋式住宅ノ室内装飾について記セ 二、台所ノ三中心ノ配列と作業面ノ高さについて記セ | 80 |

| | | | | |
|---------|---------|---|---|-----|
| 昭和13年度 | 教育 | 有吉八重子 | 裁縫教授目的ヲ論シテ教材洗濯ノ標準ヲ述ベヨ | 80 |
| | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 教育 | 坂入よしの | 教授案作製 自13年11月至14年2月 実地授業 教授スベキ生徒ハ各科ヨリ之ニ宛テ種陸高等女学校各学年生ヲ配当ス | |
| | 裁縫 | 兒山みき | 一、無双羽織とは如何なるものか 二、絹布にて本裁衣物格(二十才位)を作らんとす 適当なる地質三つを挙げ且つ仕立に際し注意すべき諸点を述べよ 三、本裁男女長着の出来上り寸法を問ふ | 80 |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | ▲一、左図婦人服の製図をせよ 図ヲ略ス 二、婦人服に於ける左の事項の重要点に付て知る処を記せ 1、色彩 2、線 3、飾りとしての附加物(ボタン、バックル、造花、マフラ、ジャボ) | ? |
| | △国語 | 上原延蔵 | 家政科と共通 (解釈力) 一・二 | 80 |
| | 裁縫 | 坂入吉野 | ▲一、総尺十一米七十釐にて 袖丈上り六十五釐 身丈上り九十五釐 線越三釐 その他普通寸法とし 尚胴接ぎの位置は十釐の差のつく様に裁れたる友禅縮緬の表地あり 之が肩裏として五米二十釐の名古屋帯地を利用せんとす。表裏各部の裁ち切り寸法如何 縫代はすべて一杯とし裏布は必要分だけを使用して丈に余分あれば残布を出されたし 裁ち方を図解し名称寸法を記し積り方をも記せ ▲二、単衣羽織の裁ち方に於ける補充寸につき図解を以て詳細に説明せよ ▲三、白羽二重四丈物(十六米)一反あり 左の寸法によりて男物無双羽織を仕立んがため各部裁ち切り寸法を定めたる後、別染にせんとす 裁ち方を図解し図には特に表の部分、裏の部分と明瞭に區別し名称寸法を記入せよ 上り身丈一〇五釐 他は普通寸法 四、小袖重につき左の事項に答へよ 1、用布の用ひ方に於ける各種類の名称及内容 2、仕立に必要な詰す ▲三、白無垢二枚重に要する表布裏布の総尺及裁方図解 4、仕立の際の点検の要点及その方法 | 160 |
| | 実習問題 | | 男袴羽織前褌のつけ方 | 180 |
| | 洋裁 | 大橋富枝 | ▲一、左図婦人服を製図せよ(図ヲ略ス) 二、モヘアと毛皮の仕立前、仕立中、裁断の三つの場面の注意事項を説明せよ 三、黒ノレーフサテンを材料としドレスメーカー、スーツの場合の装飾品及附属品について述べよ 四、教便物としての標本の価値と其の種類を挙げよ | 160 |
| | 教授法 | 坂入吉野 | 区分された単元のうち任意のものを選びて教案を作りそれに要する時数をも仮定せよ イ、女単衣物総論 口、裁方、積り方 ハ、身頃及衽の襷付け方 ニ、衿付 衿先の縫方 衿かけ方 ホ、脇縫の仕未及裾けの仕方 ヘ、肩当、居数当の付け方 右、高女一学年 最初ノ教材として | |
| 家事/住居 | 祐源トキ | 一、和式室内装飾について記せ 二、採光上窓の諸事項について記せ | 80 | |
| 家事/家事経済 | 片野實之助 | 一、予算生活ノ効果ニツキ説明スベシ 二、貯蓄ノ実行ニ必要ナル条件ヲ列挙スベシ 三、為替相場ノ騰落ガ家事経済上ニ及ボス影響ヲ問フ | 80 | |
| 家事/洗染 | 和田タケ | 一、大島縮ノ洗濯及仕上ニツキ注意スヘキコトヲ記セ 二、単帯ノ洗濯、仕上ヲ問フ | 80 | |
| 昭和14年度 | △倫理 | 伊賀駒吉郎 | 家政科と共通 | 80 |
| | △国語 | 上原延蔵 | (解釈) 一、二 | 80 |
| | 和裁 | 坂入吉野 | ▲一、裁切後身丈一〇〇釐 裁切袖丈五五釐 其ノ他ハ普通寸法ニヨリテ裁タレタル セル単衣羽織ヲ 襦袢無袴ニ仕立替セントス 各布ヲ如何ニ利用スヘキヤ但紐下ハ五釐 後巾一〇釐 其ノ他普通寸法 裁タレタル羽織布ノ寸法ヲ記入シテ図解シ各布ヨリ取ルヘキ袴布ヲ記入シテ寸法ヲ記セヨ ▲二、(イ)模様丈五〇釐ナル額裏地ヲ用ヒテ男袴羽織表地ヲ裁タントスルニ 上り身丈一〇〇釐 其ノ他ハ普通寸法トシ 前身裏裏後胴接ぎヨリ一五釐ニテ胴接ギラセントス 表布各部裁ち切り如何ニ 裁方ヲ図解シ名称寸法ヲ記シ、表総用布丈ヲ求メヨ (ロ)表布一〇米五三釐ノ場合ハ肩裏布何程ヲ要スルヤ 上り身丈一〇〇釐 其ノ他ハ普通寸法 ▲三、大人袴ノ種類ヲ各々種類ノ布適合セシ形ヲ図解シ必要ト思ハルル点ニ寸法ヲ記入セヨ 但紐下ハ三釐 各部ハ割出ニヨリテ算出セヨ | 180 |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | ▲一、左図婦人服ヲ製図セヨ(原図ヲ省ク) 二、婦人服ヲ仕立ツルニ当リ 仮縫ノ必要ナル点及其ノ注意スベキ事項ヲ略述セヨ 三、レーンコートヲ仕立ツルニ普通外套ト異ナル点ヲ述ベヨ 四、婦人服美ヲ表スニ下着ハ如何ナル役割ヲナスカ | 120 |
| | △家事 | 伊藤正文 | 一、寝室ノ家具ニ就テ説明セヨ 二、台所ノ歩行動線ト設備ニ就テ述ベヨ | 80 |
| | 和裁/實際 | 坂入吉野 | 本裁 女袴ノ袖附 衿付ノ縫方 | 180 |
| | 家事経済 | 片野實之助 | 一、予算ノ編成ニハ如何ナル事情ニ注意スヘキカ 二、家事経済ニ於テ負債ヲ起サネハナラス場合其順序方法ニ付如何ニスベキカ 三、私共ハ家庭人トシテ又国民ノ一トシテ今日ノ場合ニ於テ財蓄ニ力ヲ致サネハナラス義務ヲ有スル理由ヲ説明スベシ | 80 |
| | 教授法 | 大橋トミエ | 一、良教師トシテ望マシキ点ヲ略記セヨ 二、課題ノ種類及仕立其処理如何ニスルカ 三、左ノ事項ニ付テ述ベヨ A、教師ガ任地ヲ離ルル時如何ニスルカ B、教材ト郷土ノ関係 C、机間巡視 D、板書 | 120 |
| | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 国語 | 上原延蔵 | 解釈 一、二、三 | 80 |
| 昭和15年度 | 和裁理論 | 有吉八重 | ▲一、不用になりたるセルの女袴を外見よく動作し易く着物の汚れを防ぐ等の条件を備へし家庭着に改造せんとす 適当に考案せよ 1、仕立上り図 2、仕立上り寸法 3、裁方図を記せ 尚女袴は各自のものなること 二、左に示す男物羽織を紐下八四釐の本裁男袴に更生せんとせば如何に利用すべきや 羽織の裁切寸法 布巾三八釐 袖丈五六釐 衿丈二六〇釐 後身丈一四〇釐 前後の差一五釐 原の羽織形を示し異なる色にて作るべき袴の裁方を記入すべし ▲三、友禅富士絹四六〇釐にて八歳前後と二歳前後の女児着物を裁ち合し その仕立上り寸法を記せ 裁方を図解し各布の名称及び裁切寸法を記入すべし | 120 |
| | 洋裁 | 大橋トミエ | 左図婦人服の仕立工程を次の順序に説明せよ 一、作図 二、布地の選び方 三、地直し 四、縫方順序 五、此の洋服は幾歳までの婦人に適するか | 180 |
| | 住居(家事科) | 中西六郎 | 一、住宅各室の独立性及び融通性につき所感を述べよ △二、台所の計画に際し家具厨房に關し作業上注意すべき点を説明せよ | 80 |
| | 家事 | 片野實之助 | 一、予算ノ編成ニ當リ臨時支出ニ属スベキモノニシテ而力モ之ヲ經常支出ニ振替ヘ得ルモノハ須ク之ヲ經常支出トスベシトシテ之ヲ説明スベシ 二、家事経済ニ於ケル剰余金処分ノ対象物トシテ銀行預金信託預金公社債債券不動産ニ付其適否ヲ論セヨ 三、家事経済ニ及ボス保険ノ効果ヲ略述セヨ | 80 |
| | 口倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 50 |
| | △国語 | 上原延蔵 | 解釈 一、二、三 | 50 |
| | 洋裁 | 岡村ナミ | ▲△一、次のチャケットコートを図解せよ(図を略す) 二、チャケットコートの仕立方順序を記せ | 50 |
| | 和裁理論 | 坂入吉野 | ▲一、より身丈一〇〇釐(裾折返り上り十釐)の男単衣羽織に要する襷丈、及び補充寸は何程なるや 寸法は各部普通とし襷布丈算出の方法は図解を以て説明せよ ▲二、男袴羽織肩裏布接ぎの位置、前と後との高さに十釐の差をつけんとす、前後の差何程とすべきや ▲一、浴衣地一反(総尺十米二十釐)にて一つ身と四つ身を裁たんとす、裁方を図解して普通寸法によれる寸法を記入せよ ▲一、上着表と下着裏廻りと同一布にて比翼を仕立てんとす 表布は合せて何程を必要とするや 袖丈上り八十釐、身丈裁切り一五五釐として計算されたし | 50 |
| | 和裁実習 | 坂入吉野 | 一、紅絹にて一・五釐の左様の縫ひ方 二、絹布にて一釐の右様の縫ひ方 | 50 |
| | 住居(家事科) | 中西六郎 | △一、台所の計画に際し家具厨房に關し作業上注意すべき点を述べよ 二、住宅の設計に當り開取については如何なる注意が許要なるかを要領よく答へよ | 50 |
| 家事経済 | 片野實之助 | 一、國家ノ富強ハ家事経済ノ堅実ナル經營ニ始マル所以ヲ問フ 二、信託ハ如何ナル必要ヲ充タスタメニ生シテ出デタルヤ | 50 | |

| | | | | |
|--------|---------------|-------|--|---|
| 昭和17年度 | □倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | 洋裁 | 西川文字 | 一、男子ワイシャツの製図法を記せ 但 ステンカラー、 シングルカフス ▲二、左図の型につきて製図せよ(図を略す) 三、男児ズボン服ポケットのつけ方につき説明せよ | 80 |
| | 国語 | 新町徳之 | (解釈力) 一・二 | 80 |
| | 和裁理論 | 中村ソノ | 一、上着黒無垢下着白無垢にて本比翼の裁方積方を記せ 但、袖丈裁切り六〇釐とす 二、単衣半重ね下着の裁方 積方を問ふ 但、袖丈上り六〇釐とす 三、女物本重ねの寸法詰め方を問ふ | 80 |
| | 家事経済 | 片野實之助 | 一、家事経済学研究ノ必要ニ付記述スベシ △二、消費経済ノ研究及其ノ実行ガ悪性インフレ防止ノ上ニ及ボス効果ニ付説明スベシ △三、消費財ノ買ヒ方及使ヒ方ニ付知レル所ヲ記セ | 80 |
| | 住居 (家事科) | 竹ノ内ユキ | 一、日本住宅の沿革について簡単に記せ 二、左に答へよ (イ)寢室の広さ (ロ)台所の床材料について (ハ)敷地の広さと建坪との関係 三、食事室に対する計画を書け 四、坐式と椅子式生活を比較して論じ今後の生活方針に対する各自の意見を述べよ | 80 |
| | 和裁実習 | 中村ソノ | 一、大裁女小袖の袴つけより仕上げ迄 | 80 |
| | □倫理 | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| | □倫理 | 伊賀駒吉郎 | 一、自然主義ノ要領ヲ述べ且浪漫主義ト比較セヨ | 80 |
| | 昭和18年度 | 和裁 | 森中八重 | ▲一、左の要項により女物単衣半重ねを作らんとす イ、上着用布黒縮縮綿十一米三六釐 ロ、裁切袖丈六〇釐 ハ、より身丈一五〇釐 二、繰越三釐 ホ、下着用布白縮縮綿 右につき次の間に答へよ 1、上着下着の裁方図解 2、下着用布総尺 3、各布の裁切寸法 二、高等女学校一年生に裁切袖丈七八釐 裁切身丈一五〇釐の袴袴大裁単衣を以て婦人標準服乙型二部式に更生し余り布にて下穿きを作らしむる事を教授せんとす 如何なる注意を与ふべきか、なほこれに用ひる図解を示せ(但し本人の着用するものとする) 三、高等女学校の生徒に現下の時局に鑑み衣生活に対する指導をなさんとす、その要項を列挙せよ |
| 和裁実習 | | 森中八重 | 一、補綴 一、角孔割接ぎ 二、鉤型孔接ぎ 三、薄物掛接ぎ | 120 |
| 洋裁 | | 西川文字 | ▲一、左図の男子開襟シャツを製図せよ ▲二、全(左図の)婦人中着を製図せよ ▲三、脇ポケットの付方を図解説明せよ | 120 |
| 家事経済 | | 片野實之助 | 一、主婦ノ消費経済ニ関スル知識量ノ大小ガ戦争完遂上大ナル関係ヲ有スル所以ヲ説明スベシ 二、購買組合ノ利用ハ家事経済上ニ如何ナル利益ヲ与フルヤ 三、予算編成ニ当リ予備費ヲ設クル必要アル理由ヲ問フ | 80 |
| 家事 | | 竹ノ内ユキ | 一、寝殿造、武家造の差を記せ 二、居間 食堂 書齋 並ニ 台所の室内計画に就き詳述せよ | 80 |
| 国語 | | 上原延蔵 | 右、解釈 一・二 | 80 |
| □倫理 | | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 80 |
| 和裁理論 | | 坂入吉野 | ▲一、袖丈七十釐、身丈一米十釐、其の他普通、右裁切にて仕立てられたる一枚の単衣あり 之を以て モンペイ及びその上衣を仕立てんとす、型は任意に選定し裁方を図解せよ 但し寸法は普通標準による | 80 |
| 洋裁 | | 西川文字 | 一、左図背廣袴、小袴の仕立方を説明せよ 但、扱ひ方を手順よく述べよ(図を略す) ▲二、(イ)全台袴の返り具合を落付ける為、(ロ)前身端の延びを防ぐ為、には如何なる仕立方を施すべきや、図解説明せよ | 80 |
| □倫理 | | 伊賀駒吉郎 | 国文科・家政科と共通 | 60 |
| 昭和20年度 | □教育 (教授実習) | 坂入吉野 | 一、全科(国文・家政・技芸科)ニ亘リテ勤労働員ニヨリ各種軍事工場ニ奉仕センニヨリ只僅ニ一ヶ月ニ一回ノ休暇日ヲ夫々召集シテ出校セシメ一部ニ授業ヲナシ他ハ教授実習ヲサシメタルニヨリ実習ノ回数ハ極メテ少ナカリシ、サレド各科毎ニ宿題トシテ問題ヲ与ヘテ期限ヲキテ教授案ヲ提出セシメ其ノ批評ト校正ヲナシテ返戻セリ、実演ニ於テハ姉妹校タル樟蔭高等女学校、樟蔭東高等女学校ノ生徒ニヨリテナシタルモ其回数ハ前述ニヨリテ只僅ニ三、四回ヲ最長度トナシタルノミ、他ハ勤労働員ノ都合ナシ能ハサリキ 修練ニ於テモ同様勤労ノ状況、出席ノ度数ト心構ノ動作ニ於テ常々監督教員ノ調査スル所トナリテ其ノ成績ハ採点法ニヨラズシテ甲、乙、丙、丁ノ四階級ニ分ケテ採点セリ | 120 |
| | 和裁 | 坂入吉野 | ▲一、七十六釐巾ノセル地ニテ紐下八十三釐其普通寸法トセル女袴ヲ仕立テントス 用布何程ヲ要スルヤ 裁方ヲ図解シテ用布ノ総尺ヲ記セ ▲一、七ツ袷の袷取り方ヲ図解セヨ 一、裁縫科教授ノ原則ヲ記セ 一、女単衣袖ノ縫方ノ教案ヲ作製セヨ | 120 |
| | 洋裁 | 西川文字 | ▲一、左図ノボックスコートを製図せよ(図省略) 二、右小袴の仕立方につきて説明せよ(図省略) | 120 |
| | 国語 | 勝俣徳朗 | 一、解釈 イ・ロ 二、左ニツキテ知レル所ヲ記セ イ、雙物 ロ、序破急 ハ、桓山四鳥ノ制 | 60 |
| | 和裁実習 | 坂入吉野 | 一、補綴 イ、角孔割接ぎ ロ、鉤型孔接ぎ ハ、薄物掛接ぎ | 120 |
| | 洋裁実習 | 西川文字 | ▲一、左ノ婦人スーツヲ製図セヨ 但シ、身頃、袖、袴、二付テ | 120 |
| | 家事 | 片野實之助 | 一、予算編成ニ当リ予備費ヲ設クル必要アル理由ヲ問フ | 60 |

注記

1)「科目名欄」ならびに「科目名」欄の□印は国文科・家政科と共通問題であることを示す。また△印は家政科と共通問題であることを示す。同様に▽印は、国文科と共通問題であることを示す。一部の問題を紙数の都合から省略した。問題の詳細は、拙稿「十五年戦争期の女子専門学校女子国語試験問題」「十五年戦争期の女子専門学校『家事』試験問題」(『大阪樟蔭女子大学論集』46号・47号、2009年・2010年)を参照されたい。

2)「問題」欄、▲印は図の作成に関わる出題であることを示す。